

【参考文献】文科省「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」

SSW (School Social Worker) との連携を図る！

「SSWとは、社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家。」(文科省『生徒指導提要』H22年)

＜ソーシャルワークの大きな2つの視点＞

- ☆個人の環境への適応力を高める支援
- ☆環境に働きかけて調整する援助

ソーシャルワークでは、問題を個人と環境の折り合いが良くない状態として捉え、その状態解消のため、個人の環境への適応力を高める支援と、環境に働き掛けて問題を解決できるように調整する援助をしていくものである。

つまり、個人に働き掛けるだけでなく、学校組織など仕組みにも働き掛け、環境にも、個人と環境との関係にも働き掛ける視点を持つということがその特徴である。

SSWの活動目標は、児童生徒の一人一人の生活の質の向上とそれを支える学校・地域を作ることである。スクールソーシャルワークは、それを学校等の教育現場を基盤として行う。

(文部科学省「SSWガイドライン(素案)」より)

ケース会議の重要性

～見立てと手だての循環～
(アセスメント⇄プランニング)

＜SSWと教職員が情報を共有する重要な場＞

- ①子どもの行動には必ず理由(原因)がある
- ②その理由(原因)を個人と環境の中で見出す
- ③対応策を関係者で分担して実施する
- ④実施結果を振り返り、さらに改善策を練る

個人へのアプローチ

SSWの活用

＜手順①～④＞

① どんなケース?

- ◆不登校や家族関係に課題がある。
- ◆児童生徒の精神的課題がある。
- ◆経済的な課題がある。

② 教育委員会へ相談

- ・SSWの選定
- ・SSWの役割分担
- ・関係機関との状況

③ SSWと学校のキーパーソン教師との連絡、打ち合わせ

- ・現状の情報共有
- ・相談の方向性
- ・ケース会議の設定
- ・メンバーの選定

④ ケース会議の開催

- ・アセスメント
- ・プランニング
- ・スタディ

問題を抱える児童生徒と置かれている環境の情報共有を行うため、**エコマップ**(家族関係や社会資源との関係をラインで表し、本人や家族が置かれている状況をまとめた図)等を活用し、具体的なアセスメントとプランニングを行う。

エコマップ簡略版

＜家族図＞

男性□

女性○

*なかに年齢を入れる
一緒に暮らしている人を囲む

＜関係性のライン＞

良好

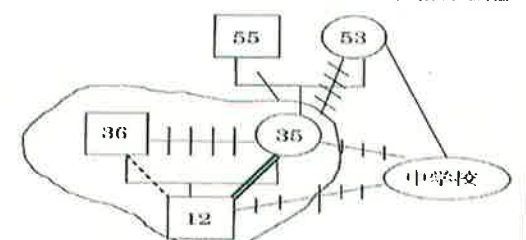
普通

希薄

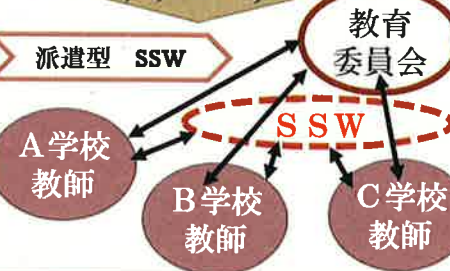
葛藤

＜記入例＞ 不登校事例：祖父母離婚、母孤立

母子密着、学校と関係とれない、祖母心配



学校組織へのアプローチ



学校内におけるチーム支援体制の構築、支援を行う。

ケース会議への参加と問題解決へのプランニングへのサポートとして、児童相談所やSC、福祉機関等の専門的視点に基づく具体的支援に向けたコンサルテーションを行う。

SSW自ら子どもや家庭を支援する直接援助と、学校と関係機関等との連携の仲介を行う間接援助がある。ケースに応じて、効果的な対応策を探る。

校内ケース会議を進め、支援システムを作るためには、必ず、**学校の中でキーパーソンとなる教師を位置づけ、明確にする。**SSWとケース会議の内容や方法を相談する等、協働姿勢で臨むことが大切である。